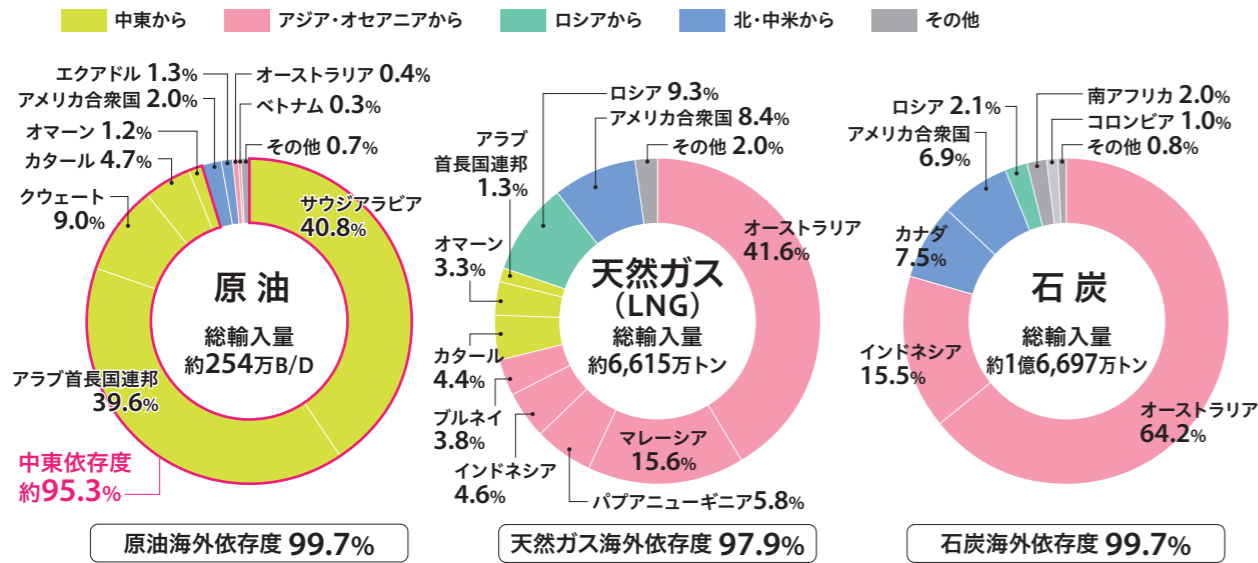


# 日本のエネルギー事情を調べてみよう

## 日本はどのような国からエネルギー資源を輸入しているのだろう

日本の化石燃料輸入先(2023年)



出典:資源エネルギー庁「日本のエネルギー エネルギーの今を知る10の質問(2025年3月発行)」をもとに作成

### エネルギー資源の分布



出典:「2025 Energy Institute Statistical Review of World Energy」及び「Uranium 2024: Resources, Production and Demand」をもとに作成

日本はエネルギー資源のほとんどを輸入に頼っています。天然ガスはオーストラリアや東南アジアなどから、石炭はオーストラリアやインドネシア、北米などから、原油は9割以上を中東から輸入しています。

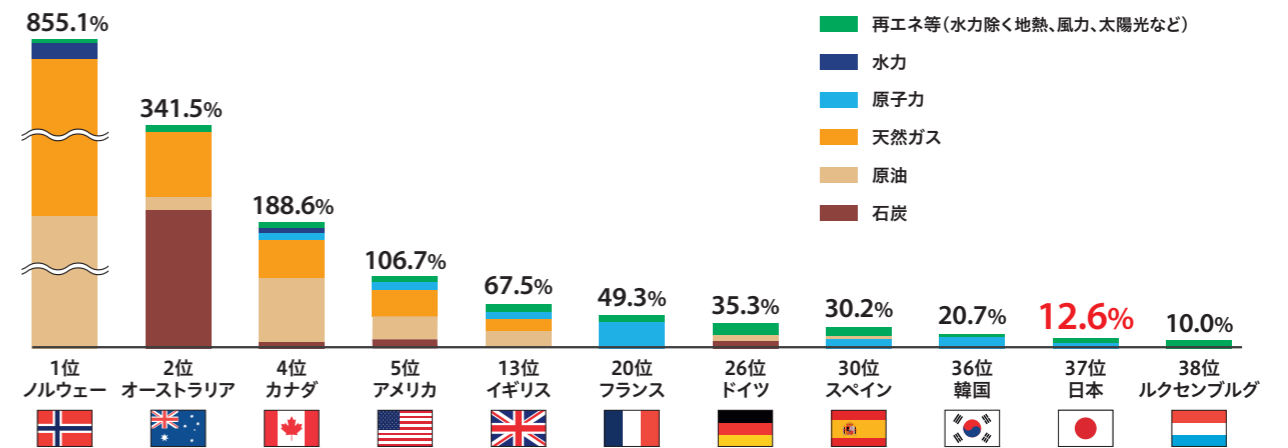
資源の輸入にあたっては、輸送ルートの安全確保についても考える必要があります。原油の多くは政治的に不安定

なホルムズ海峡や海賊行為が発生するマラッカ海峡を通じて運ばれてきます。これらの地域で何か起これば、日本のエネルギー供給は大きな影響を受ける可能性があります。

このような事情から、日本のエネルギーの安定確保には、特定の国や地域に依存せず、様々な国から多様なエネルギー資源を輸入することが重要とされています。

## 各国のエネルギー自給率はどうなっているのだろう

主要国の一次エネルギー自給率比較(2022年)



出典:資源エネルギー庁「日本のエネルギー エネルギーの今を知る10の質問(2025年3月発行)」  
※表内の順位はOECD38カ国中の順位

エネルギーを自国で確保できる割合を「エネルギー自給率」といいます。上のグラフでエネルギー自給率が100%を超えているノルウェーやオーストラリアなどは、自国で消費するエネルギーを国内で確保できているだけでなく、他国に輸出していることを意味しています。一方で、エネルギー資源の多くを輸入に頼っている日本

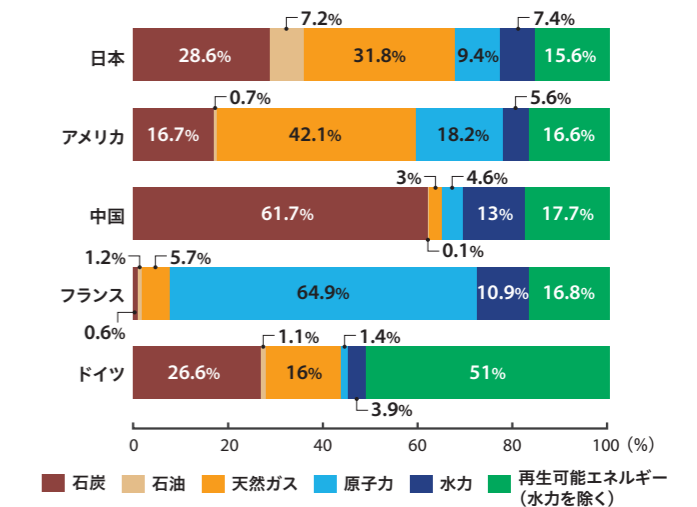
のエネルギー自給率は、わずか12.6%しかありません。エネルギー資源の多くを海外に依存していると、国際情勢の影響を受けやすくなります。最近の例では、ロシアによるウクライナ侵攻や中東情勢の悪化など、様々な要因でエネルギーが十分に確保できなくなる恐れもあることから、エネルギー自給率の向上が求められています。

## 各国の電源構成からエネルギー事情を比べてみよう

火力、原子力、水力など電気がつくられる方法の組み合わせを電源構成といいます。電源構成を比較すると、各国のエネルギー事情が見えてきます。日本は東日本大震災後に、それまで発電電力量の約25%を占めていた原子力発電の割合が低下し、現在は火力発電が約7割を占めています。また風力発電や太陽光発電などの再生可能エネルギーの割合も増えてきています。

アメリカはシェール革命と呼ばれる天然ガスの生産量増加により、天然ガス火力の割合が高く、中国は豊富な石炭資源に恵まれていることから、石炭火力が過半数以上の割合を占めています。また、日本と同じくエネルギー資源に乏しいフランスは原子力発電の割合が6割を超える一方で、ドイツは2023年に国内の原子力発電所を全て廃止し、それに代わって再生可能エネルギーの割合を大きく増やしています。

各国の電源構成比(2023年、日本は2024年度)



(注)四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある  
出典:日本は資源エネルギー庁「令和6年度(2024年度)エネルギー需給実績(速報)」、日本以外の国はIEA「World Energy Balances (2025 Edition)」をもとに作成